

### 第3回神原中学校区地域協議会会議録

#### 1. 開催の日時及び場所

令和7年10月15日（水） 18：30～20：00

市役所市民交流棟 2階 会議室A・B

#### 2. 傍聴者

なし

#### 3. 出席委員 12名（欠席委員1名）

#### 4. 次 第

##### （1） 開会

##### （2） 議事

##### 1 地域の状況について

##### 2 再編に向けての課題と対応の方向性

#### 【地域の状況について】

（会 長）：それでは、「地域の状況について」と「再編に向けての課題と対応の方向性」について、事務局から説明をお願いします。

（事務局）：（「地域の状況について」、「再編に向けて課題と対応の方向性」について資料に基づき説明）

（会 長）：何かご意見・ご質問等がありますか。

（委 員）：行事等への配慮について、「上宇部中と神原中と琴芝小」、「神原小と見初小と神原中」はそれぞれ重ならないよう配慮が必要と思いますが、「上宇部中と神原小」、「上宇部中と見初小」は、行事等が、重なっても問題ないという認識で良いですか。

（事務局）：今後、3小1中に向かっていく中で、状況が変わる可能性はありますが、現状はご意見のとおりです。

（委 員）：学校選択制を廃止することで、地域でまとまって、進学できるようになります。ただ、兄弟姉妹がいる場合は「就学学校変更届」で解決できますが、現在、琴芝小から常盤中に進学している地域の保護者等からは、計画に対して意見が出るのではないのでしょうか。

（委 員）：琴芝1区から1-10区の地域は、現状では、琴芝小から常盤中に進学することになっていますが、琴芝小から常盤中へ進学する子ども達は少数なので、常盤中への進学に不安を感じる子どもが多いと

いう話はよく聞きます。実際に「常盤中学校区だけど、神原中に進学したい」という相談も受けました。思春期である子どもたちの心の面も心配です。その辺りも配慮していく必要があると思います。

(事務局) : 琴芝1区から1-10区については、元々、琴芝小から常盤中に進学していて学校選択制がない地域なので、本来は、この計画による影響はない地域だと考えます。ただ、学校選択制対象区域以外だからといって切り捨てるのではなく、個別にご相談いただき、判断させていただくようになります。

(委員) : 実際に、現在この対象自治会に住んでいて、琴芝小から常盤中に進学している児童は何人いますか。

(事務局) : 申し訳ありません。自治会ごとの児童数については、本日資料を持ち合わせていませんので、すぐにお答えできません。

(会長) : 学年に1桁くらいではないでしょうか。それについては、個別に対応するということではよいでしょうか。実際に、琴芝小から常盤中に進学した子どもで、進学後の学校生活に不安を感じているという話は、私が聞いただけでも数人います。その子ども達がどれだけ大変な中学校生活を送り、その先の社会人生活を送っているかを目の前で見てきました。ここに学校選択制の弊害が出ていると十数年前から意見してきました。子ども達1人、1人がこれで良かったと思えるように計画を進めていきたいと思います。移行後の狭間の何年間に進学する子ども達にも、しっかりとしたケアや対応ができるように、個別の配慮をお願いします。

(委員) : 昔は、新小学1年生は、集団登校で近所の上級生に学校まで連れていってもらっていました。令和9年度からは、神原小を選択した上級生と、琴芝小に通うことになる新小学1年生では、たとえ、近所に住んでいたとしても就学先が異なります。誰が新小学1年生を琴芝小まで連れていってくれるのか、心配です。

(委員) : 今は、集団登校がなく、我が子が自分で登校できるようになるまで見守る保護者が多いので、近所の高学年の子に任せようという保護者は少ないと思います。

(委員) : 下校時は、上級生と時間が違うので、登校時よりも下校時の方が心配です。中学校区が変わるのはいいですが、登下校時の安全性については、心配しています。

(事務局) : 今日は、中学校区の再編ということで意見をいただいておりますので、こちらの計画がまとまれば、今後、「通学路の安全等」も議論していきたいと思います。

- (委 員) :令和9年度からの学校選択制の廃止によって、児童数が変化する可能性があるとのことですが、学童との連携はどう考えていますか。学童に通う子どもが、教室の許容人数を超えることはないですか。
- (事務局) :令和8年度入学予定者の「就学学校選択届」を現在受付中なので、現時点での見込み数は不明ですが、極端に琴芝小の入学者数が増えるとは、推測しておりません。また、他の地域の学童でも、一時期は学童に通う児童が増加し、指導員確保にも苦慮されたものの、児童数が減少したことで、現在は問題なく、対応できていると聞いています。全体的な児童の数が、年々減っていますので、現在、学校選択制を利用して、神原小に就学している児童が、本来の就学先である琴芝小に就学するようになったとしても、琴芝小の学童の教室が足りなくことはないと考えます。
- (委 員) :令和8年度に入学予定の新小学1年生の数は何人でしょうか。
- (委 員) :神原小が31人、琴芝小が35人の予定と聞いています。経年をみても急に増加するような推計にはなっていないので、当面は、学童についても教室の不足等の問題はないように思います。
- (委 員) :子ども会の会長をしています。計画の内容は、小学生を混乱させてしまうのではないかと心配しています。そこで、子ども会として、前向きに何かできることはあるでしょうか。琴芝校区に子ども会がありますか。
- (委 員) :1つ残っていますが、活動を休止中です。
- (委 員) :地域の子どもの数が少なくなり、活動している子ども会自体も減少する中で、子ども会にできることはないでしょうか。
- (事務局) :今回の計画で、子ども達や保護者の気持ちは少なからず揺れることもあると思います。地域の子ども会として、「繋がり」を持てるような取組があれば、お願いしたいと思っています。
- (事務局) :近い地域で、子ども達が顔見知りになることはとても大切です。近隣地域で連携した取組を進めていただくことは、大変助かります。
- (会 長) :元々の児童数が少ない上に、学校選択制で神原小を選択する子どもが増えたので、琴芝地区では、町内で子ども会の活動ができなくなりました。子ども会が休会していることも、学校選択制の弊害だと思っています。このような混乱を二度と招かないためにも、「1校区に1小中学校」のようにできるだけ1つにまとめることで、行政も、地域も、コミュニティも、我々も同じ方向に進めていけると良いと思います。また「琴芝校区の子どもが琴芝小に行かないのはおかしい」と思う人が地域の中にもいます。そのような世帯を1件、1件

把握して、対象者に丁寧に説明した方がいいと思います。行政は10年、20年経つと部署が代わり、人が代わりますが、地域の住民は変わりません。後で「これは誰がやったのか」と問われることのないように、しっかりと進めていただきたいと思います。

(委員) : 私は、母子保健推進員の活動で、神原中で赤ちゃんサークルを開催しています。昔は、見初地域や神原地域からの参加がほとんどでしたが、今は見初、神原地域はもちろん、阿知須地域からも参加者があり、色々な地域が繋がりを持てていると感じています。未就園児の頃から、色々な地域の人と触れ合って、知り合うことができる、そのような場を大切にすると、子ども達が成長した時の、周囲との繋がりに生きてくると思います。子どもの気持ちが犠牲になることがないように、幼い頃から周囲との繋がりを持つ経験をすること、その繋がりの中で、心身ともに成長できるよう見守っていく環境が大切になってくると思います。

(委員) : 「子ども達が、幼い頃から交流を持つことが大切」ということは強く感じます。子ども会会長として、子ども達が、交流を深めることができるように、何かできたら良いと思います。

(委員) : 琴芝小から常盤中に進学する児童は、昨年が3人、今年も3人程度を予定していますが、いずれも全体から見ると少数です。中学校進学を機に大集団に入って学校生活を送ることは、精神的な負担が大きいと思うので、ケアが必要だと考えます。琴芝小、神原小、見初小の交流学习については、4, 5, 6年生で交流学习を進める予定です。新たに行事を増やすことは難しいため、今ある行事の範囲内で計画を立てて、この12月中には次年度の年間行事に組み込み、令和8年度から交流学习を進めていけるように動いています。

(委員) : 3小の交流行事をするのは良いですが、見初小だけ学校の所在地が少し離れているので、何か移動手段を支援してもらえると良いと思います。

(事務局) : 何等かの方法でご協力できるように考えていきたいと思っています。

(委員) : 今年は、梶返神社から、神原小、琴芝小、見初小にも夏祭り参加のお誘いがありました。このように、地域から一緒にやっていきましようとお誘いいただけると、児童の交流に留まらず、近くの地域同士で参加して、繋がりを持つ流れができて、有難いと思います。

(委員) : 近く見初小、神原小と神原中で、ときわ公園の清掃活動をする事になっています。その時の移動は、神原中の生徒が小学生を迎えに行く事になっています。今後は、琴芝小も一緒に参加してもらえ

ると良いのではないのでしょうか。例えば、神原街区公園の清掃活動とかも計画できそうです。

(委員) : 常盤中学校区との境目に住んでいます。小学6年生の我が子と一緒に帰る近所の子が、常盤中学校区に住んでいて、「どうして、進学先が別々になるんだろう」と、子ども同士が話していました。進学後に、少数派として常盤中に進学したがやっぱり合わなかった、と気付くのでは遅いと思います。「就学学校変更願」も、そのような制度が利用できることも今回初めて知ったので、周知をしっかりと欲しいと思います。

(委員) : 令和8年度に中学1年生になる生徒について、「就学学校変更願」で、対応することはできますか。

(事務局) : 「就学学校変更願」では、届出の際に理由を選択するようになっていますが、現行では、中学校区再編による理由というのが選択肢にないため、今後中学校区再編による理由でも届出できるように、「就学学校変更願」の様式の見直しを行う予定です。

(委員) : 個人的な理由で、進学した後に「就学学校変更願」の届出はできますか。

(事務局) : 基本的に個別対応することになりますので、特に配慮をしなければならない場合は、個別に相談していただき、対応していくことになります。

(委員) : こちらの状況を説明して、教育委員会の状況判断を仰ぐというのは可能だということですか。

(事務局) : ご意見のとおりです。まずは、教育委員会に相談のうえ、届出をしていただいたうえで、個別に判断させていただくようになります。

(会長) : 琴芝校区の令和8年度の新中学1年生は、現状では上宇部中に進学しますが、「下の子が神原中に進学するなら、上の子も神原中に進学させたい」という意見は、よく聞きます。その場合は、個別で相談、対応できるようお願いします。

(委員) : 子ども達が幸せになる選択ができるよう、計画を進めていただきたいと思います。

(委員) : 私自身も琴芝小出身で、当時、常盤中に進学する友人がいたことを寂しく感じていました。1つの校区に1つの小中学校が理想だと思います。早く統合すれば、今のように複雑な進学先の分断にはならないと思います。教室も余っているので、1年でも、半年でも、早く検討して進めて欲しいと思います。子どもが減ってからの統合だと意味がないと思うので、子ども達にクラス替えができるような学

校生活を送らせてあげて欲しいです。

(事務局) : 今後の推移では、近い将来、琴芝小、神原小の単学級化が進む見込みにはなっています。推計の数字も見ながら、次回以降の協議会でも協議し、考えていきたいと思います。

(事務局) : 学校というのは、地域の皆さまの誇りであると思います。今の子ども達だけでなく、孫の世代まで、地域の学校像を考えながら進めていきたいと思います。

(会 長) : 昔は、子どもの数が多かったですが、今は全体的に減少傾向です。24小学校で始まった学校区についても、これから先は、子どものことを中心に考え、適宜まとめていく必要があると思います。そのためには思い切って校区の区切りを改めることも進めていく必要があると思います。あと何回かの協議会でも、しっかり意見を交わしていきましょう。

続いて、事務局から先日視察された埴生小中一貫校の視察の報告をお願いします。

(事務局) : (資料をもとに説明)

(会 長) : その他にご意見・ご質問などはございませんか。ご意見などがないようですので、以上で本日の議事は終了とします。